



Title	坂元一哉教授略歴・主要著作目録
Author(s)	
Citation	阪大法学. 2021, 71(3-4), p. 464-482
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/87385
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

三成 賢次教授
坂元 一哉教授

略歴・主要著作目録

坂元 一哉教授 略歴

- 一九五六（昭和三一）年 一月 福岡県大牟田市に出生
- 一九七四（昭和四九）年 三月 福岡県立三池高等学校卒業
- 一九七九（昭和五四）年 三月 京都大学法学部卒業
- 一九八一（昭和五六）年 三月 京都大学大学院法学研究科修士課程修了
- 一九八五（昭和六〇）年 八月 米国立ハイオク大学歴史学部大学院修了
- 一九八七（昭和六二）年 三月 京都大学大学院法学研究科博士後期課程政治学専攻研究指導認定退学
- 一九八八（昭和六三）年 四月 京都大学法学部助手
- 一九八九（平成 元）年 四月 三重大学人文学部講師
- 一九九〇（平成 二）年 四月 三重大学人文学部助教授
- 一九九四（平成 六）年 四月 大阪大学法学部助教授
- 一九九七（平成 九）年 八月 大阪大学法学部教授
- 一九九九（平成一一）年 四月 大阪大学大学院法学研究科教授
- 二〇〇二（平成一四）年 三月 京都大学博士
- 二〇〇二（平成一四）年 四月 学位授与機構・社会科学専門委員会委員（二〇〇四年三月まで）
- 二〇〇二（平成一四）年 八月 外務省「外交政策評価パネル」委員（二〇〇三年八月まで）
- 二〇〇三（平成一五）年 九月 外務省「国連改革に関する有識者懇談会」委員（二〇〇四年六月まで）
- 二〇〇五（平成一七）年 二月 内閣官房「海外経済協力に関する検討会」委員（二〇〇六年二月まで）
- 二〇〇六（平成一八）年 二月 外務省「日中歴史共同研究」委員（二〇〇八年二月まで）
- 二〇〇七（平成一九）年 三月 外務省「国際協力に関する有識者会議」委員（二〇〇九年三月まで）
- 二〇〇七（平成一九）年 四月 日本学術振興会・学術システム研究センター研究員（二〇一〇年三月まで）
- 二〇〇七（平成一九）年 五月 内閣官房「安全保障の法的基盤の再構築に関する懇談会」委員（二〇〇八年六月まで）
- 二〇〇九（平成二一）年 九月 外務省「いわゆる『密約』問題に関する有識者委員会」委員（二〇一〇年三月まで）
- 二〇一三（平成二五）年 二月 内閣官房「安全保障の法的基盤の再構築に関する懇談会」委員（二〇一四年五月まで）

坂元一哉教授略歴・主要著作目録

二〇一八（平成三〇）年 八月 内閣官房「安全保障と防衛力に関する懇談会」委員（二〇一八年二月まで）
二〇二一（令和 三）年 三月 大阪大学定年退職
二〇二一（令和 三）年 四月 大阪大学名誉教授

主要著作目録

I 著書(単著)

- 『日米同盟の絆——安保条約と相互性の模索』有斐閣 二〇〇〇年
『日米同盟の難問——「還暦」をむかえた安保条約』P H P 研究所 二〇一二年
『日米同盟の絆——安保条約と相互性の模索「増補版」』有斐閣 二〇二〇年

II 著書(共著)

- 『戦後日本 占領と戦後改革 戦後改革とその遺産 第六卷』岩波書店 一九九五年
『日米戦後史のドラマ』P H P 研究所 一九九九年
『戦後日本外交史』有斐閣 二〇〇一年
『日米関係キーワード』有斐閣 二〇〇一年
『同盟の比較研究——冷戦後秩序を求めて』日本評論社 二〇〇四年
『新・国際政治経済の基礎知識』有斐閣 二〇〇五年
『歴史の教訓——日本外交・失敗の本質と二十一世紀の国家戦略』P H P 研究所 二〇〇五年
『日本政治 過去と現在の対話』大阪大学出版会 二〇〇五年
『国際政治事典』弘文堂 二〇〇五年
『日本の外交 第二卷 外交史・戦後編』岩波書店 二〇一三年
『日本をめぐる安全保障これから十年のパワー・シフト その戦略環境を探る』亜紀書房 二〇一四年
Postwar Japan: Growth, Security, and Uncertainty since 1945 CSIS 二〇一七年
『現代地政学事典』丸善出版 二〇二〇年

Ⅲ 監修・解説

『はじめて読む日米安保条約』宝島社

二〇一六年

Ⅳ 解説

吉田茂『回想十年 第三卷』中公文庫

一九九八年

西村熊雄『サンフランシスコ平和条約・安保条約』中公文庫

一九九九年

V 論説

「駐ソ大使ハリマンの進言とアメリカ外交（一九四三年一月―一九四六年二月）（一）」

『法学論叢』一一二巻五号

一九八三年

「駐ソ大使ハリマンの進言とアメリカ外交（一九四三年一月―一九四六年二月）（二）」

『法学論叢』一一三巻一号

一九八三年

「駐ソ大使ハリマンの進言とアメリカ外交（一九四三年一月―一九四六年二月）（三）」

『法学論叢』一一三巻二号

一九八三年

「アイゼンハウアーの外交戦略と日本、一九五三―一九五四年（一）」

『法学論叢』一二三巻二号

一九八七年

「アイゼンハウアーの外交戦略と日本、一九五三―一九五四年（二）」

『法学論叢』一二三巻三号

一九八八年

「米国家安全保障会議政策文書NSC五五―一六／一について」

『三重大学法経論叢』七巻二号

一九九〇年

「池田ロバートソン会談再考」

『三重大学法経論叢』九巻一号

一九九一年

「重光訪米と安保改定構想の挫折」

『三重大学法経論叢』一〇巻二号

一九九二年

「日ソ国交回復交渉とアメリカ―ダレスはなぜ介入したか」

『国際政治』一〇五号

一九九四年

「核兵器と日米関係―ビキニ事件の外交処理」

『近代日本研究』一六―戦後外交の形成』(山川出版)

一九九四年

「岸首相と安保改定の決断」

『阪大法学』四五巻一号

一九九五年

- 「日米安保事前協議制の成立をめぐる疑問——朝鮮半島有事の場合」
「安保改定における相互性の模索——条約区域と事前協議をめぐる」
「日米安保における相互性の形——ガイドライン見直しによせて」
「安保密約を公開する準備を——『大人の同盟』への出発点に」
「二十一世紀の日米同盟と集団的自衛権」
「日米同盟の『あるべきかたち』とは何か」
「日米同盟の幅を広げ『勢力均衡』で協力を」
「国連安保理改革と日本の立場」
「日米同盟における『物と人との協力』『人と人との協力』」
「日本は米軍再編に協力して発言力を確保せよ」
「平和条約と『東京裁判受諾』論争が欠く外交史的視点」
「グアムを守る日米同盟」
「北朝鮮説得の役割分担——国際社会が強硬論と柔軟論に分かれるのも悪くない」
「北朝鮮の核開発と東アジアの安全保障」
「憲法と安全保障——集団的自衛権について考える」
「今こそ憲法解釈の隘路を抜け出せ」
「安保条約と吉田外交——豊下橋彦『安保条約の成立』を読む」
「日米同盟の課題——安保改定五〇年の視点から」
「日米同盟の『深化』を考える——安保改定五〇年を振り返って」
「日米中の『正三角形』論——相手不在の構想なき外交論」
「本格復興を担う『災後』政治のために」
「『災後の時代』の同盟論」
- 『阪大法学』四六巻四号 一九九六年
『国際政治』一一五号 一九九七年
『外交フォーラム』一〇巻一三三号 一九九七年
『論座』六六号 二〇〇〇年
『環』第八巻 二〇〇二年
『フォーサイト』一三巻二号 二〇〇二年
『論座』九三号 二〇〇三年
『国際問題』五三四号 二〇〇四年
『外交フォーラム』一八巻八号 二〇〇五年
『論座』一一六号 二〇〇五年
『正論』四〇一号 二〇〇五年
『Voice』三三〇号 二〇〇六年
『Voice』三四五号 二〇〇六年
- 『公明』一三三号 二〇〇七年
『先見経済』五四巻六号 二〇〇八年
『正論』四四四号 二〇〇九年
『阪大法学』五九巻三・四号 二〇〇九年
『国際問題』五八八号 二〇一〇年
『外交』二号 二〇一〇年
『公明』五四号 二〇一〇年
『公明』六六号 二〇一一年
『Voice』四〇三三号 二〇一一年

「超大国のリーダーの資格」

『will』一九三号

二〇二一年

VI 学会・研究会報告

「アイゼンハウアーの外交戦略と日米関係の展開、1953—1954年」(報告者)

国際政治学会

一九八七年

「NSC五五—一六〇と戦後日米関係の形成」(報告者)

国際問題研究会

一九八八年

「重光外交とアメリカ——『FRUS一九五五—一九五七年、日本』を読む」(報告者)

国際政治学会

一九九二年

「北方領土問題とアメリカ——ダレスはなぜ日ソ交渉に介入したか?」(報告者)

国際問題研究会

一九九二年

「岸政権と安保改定」(報告者)

文部省科学研究費重点領域研究
「戦後日本形成の基礎的研究」

一九九四年

第三回シンポジウム

「戦後日本外交の検証」(討論者)

日本政治学会

一九九五年

「六〇年安保改定交渉」(討論者)

国際政治学会

一九九六年

“Securing the “San Francisco System”: the Revision of the U.S.-Japan Security Treaty in 1960” (報告者)

Symposium “Japan’s Road to International Autonomy in the Cold War Era (1950s)”

一九九六年

“The U.S.-Japan Guidelines for Defense Cooperation and the Future

Council on Foreign Relations

一九九七年

of East Asian Security” (報告者)

“Security in Northeast Asia” (討論者)

国際政治学会

一九九七年

「戦後日本のアジア復帰」(討論者)

国際政治学会

一九九八年

「戦後日本外交の形成——日米安全保障条約をめぐる」(報告者)	第一九回プロジェクト・セミナー (東京大学社会科学研究所)	二〇〇〇年
「日米同盟の形成と集团的自衛権」(報告者)	防衛学会	二〇〇〇年
「吉田外交の再評価」(報告者)	国際政治学会	二〇〇一年
「サンフランシスコ平和条約と『西村調書』」(報告者)	外務省外交史料館研究会	二〇〇三年
「新資料から見たサンフランシスコ平和条約」(報告者)	関西政治史研究会	二〇〇四年
「日本外交と安全保障理事会の改革問題」(討論者)	日本国際連合学会	二〇〇四年
「日米間の新しい安保課題」(討論者)	日韓国交正常化四〇周年国際学術 会議(日本国際政治学会、韓国 国際政治学会、韓国現代日本学 会等共同主催)	二〇〇五年
「一九六〇年代日本外交の実証的研究」(討論者)	国際政治学会	二〇〇五年
「東アジアの歴史共同研究」(討論者)	国際政治学会	二〇〇七年
「パクス・アメリカーナと戦後日本の自主外交」(討論者)	国際政治学会	二〇〇九年
「日米同盟をいかに『深化』させるか——共通目的、役割分担、法的 基盤」(報告者)	アメリカ学会	二〇一〇年
「安保条約と事前協議——『密約』とは何か」(報告者)	日本国際政治学会	二〇一〇年
「新しい安保法制の評価と期待」(報告者)	平和・安全保障研究所	二〇一五年
「戦後日本と『帝国』再生の条件——憲法、平和条約、安保条約」(報 告者)	国際政治学会	二〇一六年
「新時代の日米同盟と地政学」(報告者)	防衛省防衛研究所	二〇一六年
「明治一五〇年の世界と日本——歴史をどう振り返るか」(報告者)	「大阪シンポジウム」(日本国際間 題研究所および関西経済同友会)	二〇一八年

「現代日本外交の三〇年」(討論者)

共催
国際政治学会

二〇一八年

VII 座談会・対談

「静かなる思索は時代を超えて」(座：北岡伸一、中西寛)

『季刊アステイオン』四二号

一九九六年

「安全保障改革——今の日本に求められている最後の砦」(座：笹島雅彦、森本敏)

『外交フォーラム』一四卷一—号

二〇〇一年

「講和・安保条約から五十年 吉田外交を見直す——新資料が明かす

『論座』八〇号

二〇〇二年

日米交渉の舞台裏」(座：菅英輝、田中明彦)

『論座』八八号

二〇〇二年

「新資料が明かす六〇年安保交渉 『安定』の裏に『依存心』生んだ岸・安保改定」(座：菅英輝、我部政明)

『諸君』三四卷一—号

二〇〇二年

「『同盟国』の『名誉と条理』に従え」(対：阿川尚之)

『諸君』三四卷一—号

二〇〇二年

「アメリカの時代 『君子豹変』する国・アメリカ」(座：岡崎久彦、中西寛)

『諸君』三五卷二—号

二〇〇三年

「幣原外交の挫折 国際協調(ワシントン) 体制を壊したのは中国だ」(座：岡崎久彦、須藤眞志)

『諸君』三五卷二—号

二〇〇三年

「同盟なくして平和なし！ 回帰する歴史」(座：中西輝政、荻原俊洋)

『諸君』三五卷五号

二〇〇三年

「日本外交の過誤」を解説する(一) (座：兼原信克、御厨貴)

『外交フォーラム』一七卷一—号

二〇〇四年

「日本外交の過誤」を解説する(二) (座：兼原信克、御厨貴)

『外交フォーラム』一七卷二—号

二〇〇四年

「日本外交の過誤」を解説する(三) (座：兼原信克、御厨貴)

『外交フォーラム』一七卷三—号

二〇〇四年

「明治天皇と『プロジェクトR』」(対：御厨貴)

『諸君』三六卷三号

二〇〇四年

「日本外交の過誤」を解説する(最終回) (座：兼原信克、御厨貴)

『外交フォーラム』一七卷四号

二〇〇四年

「国連の強化・活用を日本外交の主軸に」(座：横田洋三、野村彰男)

『外交フォーラム』一八卷四号

二〇〇五年

「A級戦犯合祀が再燃させた戦争責任問題を検証する」(座・松本健一、御厨貴) 二〇〇五年

「過信は禁物 日米同盟は盤石ならず」(座・奥山真司、村田晃嗣) 二〇〇六年

「美しい国」の『主張する外交』がめざすもの——市民権回復外交の時代は終わった」(対・兼原信克) 二〇〇七年

「これが日本を強くする新安保条約だ」(座・佐瀬昌盛、谷内正太郎) 『正論』四七九号 二〇一二年

「平和主義を責任ある形で実現するためにも、集団的自衛権の行使を容認すべきだ」(座・国分高史、松本一弥) 『Journalism』二八八号 二〇一四年

「ヒラリー幻想」を戒める——強いアメリカを期待」(対・中西輝政) 『WIJ』一四四号 二〇一六年

「トランプノミクスはレーガン+田中角栄だ」(対・中西輝政) 『WIJ』一四五号 二〇一七年

「国際安全保障」三三三巻四号 二〇〇六年

「米関係の新しい視点」 『レヴァイアサン』四一号 二〇〇七年

「吉田路線」はなぜ続いたのか——中島信吾著『戦後日本の防衛政策——「吉田路線」をめぐる政治・外交・軍事』慶應義塾大学出版会、二〇〇六年

「佐々木卓也著『アイゼンハワー政権の封じ込め政策』」 『書齋の窓』五七七号 二〇〇八年

VIII 新聞コラム

「世界のかたち、日本のかたち」 『産経新聞』 二〇〇八年 四月一六日

「世界のかたち、日本のかたち」 『産経新聞』 二〇〇八年 五月一六日

「世界のかたち、中国の変化」 『望む声』 二〇〇八年 六月一四日

「世界のかたち、日本のかたち」 『もう一つのアメリカ』 二〇〇八年 六月一四日

【世界のかたち、日本のかたち】	「宥和策プラス面にも目を」	産経新聞	二〇〇八年	七月二日
【世界のかたち、日本のかたち】	「C O 2削減 議論リードを」	産経新聞	二〇〇八年	九月一三日
【世界のかたち、日本のかたち】	「集団的自衛権の解釈変更を」	産経新聞	二〇〇八年一〇月一日	
【世界のかたち、日本のかたち】	「米国民の団結取り戻せるか」	産経新聞	二〇〇八年一月二五日	
【世界のかたち、日本のかたち】	「高まる対米協力への期待」	産経新聞	二〇〇八年二月一三日	
【世界のかたち、日本のかたち】	「多極世界で『合衆国再生』」	産経新聞	二〇〇九年一月六日	
【世界のかたち、日本のかたち】	「一つの極として立てるか」	産経新聞	二〇〇九年二月一四日	
【世界のかたち、日本のかたち】	「『正義』に基づく解決策を」	産経新聞	二〇〇九年三月一四日	
【世界のかたち、日本のかたち】	「政権交代、日本に何もたらす」	産経新聞	二〇〇九年四月一日	
【世界のかたち、日本のかたち】	「地域劇場に見る『国の魅力』」	産経新聞	二〇〇九年五月九日	
【世界のかたち、日本のかたち】	「北核問題 鍵握る米中の姿勢」	産経新聞	二〇〇九年六月一三日	
【世界のかたち、日本のかたち】	「意味持たぬ密約 開示準備を」	産経新聞	二〇〇九年七月一日	
【世界のかたち、日本のかたち】	「自信持つて過去と向き合う」	産経新聞	二〇〇九年八月二五日	
【世界のかたち、日本のかたち】	「鳩山氏の不思議な弁明」	産経新聞	二〇〇九年九月二日	
【世界のかたち、日本のかたち】	「『重要な同盟関係』の深化」	産経新聞	二〇〇九年一〇月一〇日	
【世界のかたち、日本のかたち】	「『対等な日米同盟』示して」	産経新聞	二〇〇九年十一月二四日	
【世界のかたち、日本のかたち】	「米大統領演説の魅力」	産経新聞	二〇〇九年十二月二日	
【世界のかたち、日本のかたち】	「首相の『駐留なき安保』」	産経新聞	二〇一〇年一月九日	
【世界のかたち、日本のかたち】	「東アジア視野に安保深化を」	産経新聞	二〇一〇年二月一七日	
【世界のかたち、日本のかたち】	「『密約』の真実を語る意義」	産経新聞	二〇一〇年三月一三日	
【世界のかたち、日本のかたち】	「日米首脳会談の不開催」	産経新聞	二〇一〇年四月一七日	
【世界のかたち、日本のかたち】	「『政治主導』の空回り」	産経新聞	二〇一〇年五月二五日	
【世界のかたち、日本のかたち】	「『日米同盟基軸』に揺らぎ」	産経新聞	二〇一〇年六月二日	

【世界のかたち、日本のかたち】	「政治の停滞と暴走」	産経新聞	二〇一〇年	七月一〇日
【世界のかたち、日本のかたち】	「廃絶と切り離せない核の傘」	産経新聞	二〇一〇年	八月一四日
【世界のかたち、日本のかたち】	「崇高な理想忘れた中国」	産経新聞	二〇一〇年	九月一九日
【世界のかたち、日本のかたち】	「『事なかれ』で増長した中国」	産経新聞	二〇一〇年	一〇月九日
【世界のかたち、日本のかたち】	「尖閣映像 流出に思う」	産経新聞	二〇一〇年	十一月三日
【世界のかたち、日本のかたち】	「北崩壊後の大変動に備えよ」	産経新聞	二〇一〇年	十二月一日
【世界のかたち、日本のかたち】	「民主党自身の『天命』」	産経新聞	二〇一一年	一月七日
【世界のかたち、日本のかたち】	「菅首相の外交基本方針」	産経新聞	二〇一一年	二月二日
【世界のかたち、日本のかたち】	「『災中』政治の乗り切り方」	産経新聞	二〇一一年	四月二二日
【世界のかたち、日本のかたち】	「『ポスト三・一一』の日米同盟」	産経新聞	二〇一一年	五月二四日
【世界のかたち、日本のかたち】	「『人を変える』必要性」	産経新聞	二〇一一年	六月一日
【世界のかたち、日本のかたち】	「民主党の『コスト』『利益』」	産経新聞	二〇一一年	七月九日
【世界のかたち、日本のかたち】	「選挙で民主に『命令』」	産経新聞	二〇一一年	八月二三日
【世界のかたち、日本のかたち】	「日米同盟『三度目の正直』」	産経新聞	二〇一一年	九月一〇日
【世界のかたち、日本のかたち】	「普天間移設 泥かぶる覚悟で」	産経新聞	二〇一一年	一〇月二五日
【世界のかたち、日本のかたち】	「安保なき『国家戦略会議』」	産経新聞	二〇一一年	十一月二日
【世界のかたち、日本のかたち】	「『中国の興隆』の行方」	産経新聞	二〇一一年	十二月一〇日
【世界のかたち、日本のかたち】	「安保政策 核も『想定内』」	産経新聞	二〇一二年	一月一四日
【世界のかたち、日本のかたち】	「スーダン安定化への橋渡し」	産経新聞	二〇一二年	二月一日
【世界のかたち、日本のかたち】	「北方領土 理想の『引き分け』」	産経新聞	二〇一二年	三月一七日
【世界のかたち、日本のかたち】	「ポスト『戦後』の防災と防衛」	産経新聞	二〇一二年	四月二一日
【世界のかたち、日本のかたち】	「日米同盟さらなる高みへ」	産経新聞	二〇一二年	五月二二日
【世界のかたち、日本のかたち】	「傲慢な中国外交の危うさ」	産経新聞	二〇一二年	六月九日

- 【世界のかたち、日本のかたち】「尖閣『知日派』の誤解」
- 【世界のかたち、日本のかたち】「多様性発展のリード役」
- 【世界のかたち、日本のかたち】「中国と『仲良く』に注意点」
- 【世界のかたち、日本のかたち】「中国を『好ましい方向』に」
- 【世界のかたち、日本のかたち】「分裂しつつ、ブレない米外交」
- 【世界のかたち、日本のかたち】「トップの安定、方法は…」
- 【世界のかたち、日本のかたち】「日米同盟の目的 再確認」
- 【世界のかたち、日本のかたち】「尖閣の『よい』棚上げ」
- 【世界のかたち、日本のかたち】「修復された日米関係」
- 【世界のかたち、日本のかたち】「沖繩にも主権回復の意義」
- 【世界のかたち、日本のかたち】「他国民も守る憲法解釈を」
- 【世界のかたち、日本のかたち】「集団的自衛権に誤解あり」
- 【世界のかたち、日本のかたち】「『平和主義』見直すべき時」
- 【世界のかたち、日本のかたち】「靖国参拝の真意 説明必要」
- 【世界のかたち、日本のかたち】「誤解防ぐ新しい憲法解釈」
- 【世界のかたち、日本のかたち】「解釈変更大切な『三ない』」
- 【世界のかたち、日本のかたち】「自国を防衛する権利」
- 【世界のかたち、日本のかたち】「七月一日は『名譽ある日』」
- 【世界のかたち、日本のかたち】「日本を苦しめるイメージ」
- 【世界のかたち、日本のかたち】「平和的台頭へ中国包囲」
- 【世界のかたち、日本のかたち】「戦争反省史に見る誤解」
- 【世界のかたち、日本のかたち】「世界認めた『新しい日本』」
- 【世界のかたち、日本のかたち】「戦後処理 歴史直視から」

産経新聞	二〇二二年	七月二四日
産経新聞	二〇二二年	八月一日
産経新聞	二〇二二年	九月二五日
産経新聞	二〇二二年	一〇月二三日
産経新聞	二〇二二年	十一月一〇日
産経新聞	二〇二二年	十二月二五日
産経新聞	二〇二三年	一月二二日
産経新聞	二〇二三年	二月九日
産経新聞	二〇二三年	三月九日
産経新聞	二〇二三年	四月二九日
産経新聞	二〇二三年	七月二九日
産経新聞	二〇二三年	九月三〇日
産経新聞	二〇二三年	十一月二五日
産経新聞	二〇二四年	一月二〇日
産経新聞	二〇二四年	三月一〇日
産経新聞	二〇二四年	五月二二日
産経新聞	二〇二四年	六月三〇日
産経新聞	二〇二四年	八月二五日
産経新聞	二〇二四年	一〇月二三日
産経新聞	二〇二四年	十一月二四日
産経新聞	二〇二五年	一月一九日
産経新聞	二〇二五年	三月一六日
産経新聞	二〇二五年	四月二七日

【世界のかたち 日本のかたち】	「特に大切な『歯止め』議論」	産経新聞	二〇一五年	六月	八日
【世界のかたち 日本のかたち】	「対中国醒める米の『夢』」	産経新聞	二〇一五年	七月	二〇日
【世界のかたち 日本のかたち】	「戦後七〇年 二つの『決着』」	産経新聞	二〇一五年	一月	二三日
【世界のかたち 日本のかたち】	「憲法改正まず自衛隊明記」	産経新聞	二〇一六年	一月	二五日
【世界のかたち 日本のかたち】	「日米安保と自由主義」	産経新聞	二〇一六年	三月	二八日
【世界のかたち 日本のかたち】	「日本外交覚醒 印象づけた」	産経新聞	二〇一六年	五月	三〇日
【世界のかたち 日本のかたち】	「護るべき法 変えたい法」	産経新聞	二〇一六年	八月	二九日
【世界のかたち 日本のかたち】	「トランプ氏 最大の公約」	産経新聞	二〇一六年	十一月	二八日
【世界のかたち 日本のかたち】	「アメリカニズムの正体」	産経新聞	二〇一七年	二月	二〇日
【世界のかたち 日本のかたち】	「極東有事と日本の利益線」	産経新聞	二〇一七年	四月	一七日
【世界のかたち 日本のかたち】	「九条を改正しない改憲」	産経新聞	二〇一七年	六月	一九日
【世界のかたち 日本のかたち】	「北の核防ぐ大国の責任」	産経新聞	二〇一七年	七月	二四日
【世界のかたち 日本のかたち】	「話し合いのための自衛力」	産経新聞	二〇一七年	九月	一八日
【世界のかたち 日本のかたち】	「自衛隊明記 九条と別に」	産経新聞	二〇一七年	十一月	二七日
【世界のかたち 日本のかたち】	「自由世界の歴史の基点に」	産経新聞	二〇一八年	一月	二二日
【世界のかたち 日本のかたち】	「北非核化へ米の本気度」	産経新聞	二〇一八年	三月	一九日
【世界のかたち 日本のかたち】	「まっとうな国への条件」	産経新聞	二〇一八年	五月	二一日
【世界のかたち 日本のかたち】	「北は米の保護下に入るか」	産経新聞	二〇一八年	七月	一六日
【世界のかたち 日本のかたち】	「米『ライオン』の怒り」	産経新聞	二〇一八年	八月	二七日
【世界のかたち 日本のかたち】	「トランプ大統領の『宝刀』」	産経新聞	二〇一八年	十月	一五日
【世界のかたち 日本のかたち】	「『三原則』沈黙守る中国」	産経新聞	二〇一八年	十一月	二六日
【世界のかたち 日本のかたち】	「放棄していいない」領土」	産経新聞	二〇一九年	一月	二四日
【世界のかたち 日本のかたち】	「『ポスト戦後』の新時代へ」	産経新聞	二〇一九年	二月	二五日

- 【世界のかたち、日本のかたち】「ポスト『冷戦後』の時代」
産経新聞 二〇一九年 五月二七日
- 【世界のかたち、日本のかたち】「日本ができる米国防衛」
産経新聞 二〇一九年 七月一五日
- 【世界のかたち、日本のかたち】「朝鮮戦争後」意識せよ」
産経新聞 二〇一九年 九月一六日
- 【世界のかたち、日本のかたち】「自衛隊の憲法議論急げ」
産経新聞 二〇一九年 一〇月二一日
- 【世界のかたち、日本のかたち】「日米同盟の公正な分担」
産経新聞 二〇一九年 二月二三日
- 【世界のかたち、日本のかたち】「トランプ氏への過小評価」
産経新聞 二〇二〇年 二月 二日
- 【世界のかたち、日本のかたち】「ウイルス戦争 中国の責任」
産経新聞 二〇二〇年 三月三〇日
- 【世界のかたち、日本のかたち】「日本の真価問う『戦争』」
産経新聞 二〇二〇年 五月一八日
- 【世界のかたち、日本のかたち】「対中政策見直す時期」
産経新聞 二〇二〇年 八月二四日
- 【世界のかたち、日本のかたち】「戦後を終わらせた首相」
産経新聞 二〇二〇年 一〇月一九日
- 【正論】「米軍再編が突きつける日本の選択」
産経新聞 二〇〇六年 五月一六日
- 【正論】「国際社会動かす決意示した日本外交」
産経新聞 二〇〇六年 七月二九日
- 【正論】「生ぬるい安全保障感覚に決別せよ」
産経新聞 二〇〇六年 一〇月二〇日
- 【正論】「日本の戦争責任について考える」
産経新聞 二〇〇六年 一月二一日
- 【正論】「日中歴史共同研究成功への三原則」
産経新聞 二〇〇七年 三月 三日
- 【正論】「集団的自衛権解釈は変更が必要」
産経新聞 二〇〇七年 五月 一日
- 【正論】「『八・一五』に思う」
産経新聞 二〇〇七年 八月一六日
- 【正論】「安倍首相辞任 テロ特措法に職を賭して」
産経新聞 二〇〇七年 九月一九日
- 【正論】「テロ特措法 活動停止は日米同盟を破壊」
産経新聞 二〇〇七年 一〇月一六日
- 【正論】「『八月一五日』」
産経新聞 二〇〇八年 八月一四日
- 【正論】「武力行使の解釈に画期的変化」
産経新聞 二〇〇九年 六月 一日
- 【正論】「『緊密で対等』な日米同盟とは」
産経新聞 二〇〇九年 八月二〇日
- 【正論】「『正直は最良の策』と割り切る」
産経新聞 二〇〇九年 九月 四日

【正論】「次期政権は解散選挙で決すべし」	産経新聞	二〇二一年	七月二五日
【正論】「菅田修正が自衛隊合憲根拠なら」	産経新聞	二〇二二年	二月九日
【正論】「憲法と私」	産経新聞	二〇二二年	五月二日
【正論】「中国攻勢への抵抗が新時代開く」	産経新聞	二〇二二年	〇月三一日
【正論】「『国民の憲法』考」	産経新聞	二〇二三年	五月一日
【正論】「中国の『平和的台頭』を試す米国」	産経新聞	二〇二三年	六月二〇日
【正論】「『八・一五』に思う」	産経新聞	二〇二三年	八月九日
【正論】「中国がつく尖閣『棚上げ』の嘘」	産経新聞	二〇二三年	十一月三日
【正論】「尖閣明言に見えた大統領の覚悟」	産経新聞	二〇二四年	八月二八日
【正論】「中国は互恵目指し対日改善はかれ」	産経新聞	二〇二四年	〇月三一日
【正論】「日米新指針が強めた同盟の『絆』」	産経新聞	二〇二五年	五月五日
【正論】「集団的自衛権の本質を突く議論を」	産経新聞	二〇二五年	七月八日
【正論】「成立『安保法制』平和主義強化の基盤は整った」	産経新聞	二〇二五年	九月二三日
【正論】「『航行の自由』こそ核心的利益だ」	産経新聞	二〇二五年	十一月二七日
【正論】「トランプ発言に動じない同盟を」	産経新聞	二〇二六年	五月二四日
【正論】「よりよい米国大統領になる条件」	産経新聞	二〇二六年	〇月二六日
【正論】「大改革の聖断下された昭和天皇」	産経新聞	二〇二七年	四月五日
【正論】「日米同盟の覚悟示した首相発言」	産経新聞	二〇二七年	二月二八日
【正論】「新しい海洋国家の日本建設を」	産経新聞	二〇一九年	四月二三日
X 新聞書評			
中馬清福著『密約外交』（文春新書、二〇〇二年）	読売新聞	二〇〇三年	一月五日
武田徹著『核』論』（勁草書房、二〇〇二年）	読売新聞	二〇〇三年	一月二六日

- J・L・ギャデイス著／五味俊樹他訳『ロングビーチ』(芦書房、二〇〇二年)
相澤淳著『海軍の選択』(中公叢書、二〇〇二年)
トーマス・フリードマン著／鈴木淑美訳『グラウンドゼロ』(ウエッジ、二〇〇三年)
ジェイムズ・バムフォード著／瀧澤一郎訳『すべては傍受されている』(角川書店、二〇〇三年)
中西寛著『国際政治とは何か』(中公新書、二〇〇三年)
原彬久著『岸信介証言録』(毎日新聞社、二〇〇三年)
納家政嗣著『国際紛争と予防外交』(有斐閣、二〇〇三年)
ロバート・D・エルドリッジ著『沖縄問題の起源』(名古屋大学出版会、二〇〇三年)
デービッド・ハルバースタム著／小倉慶郎他訳『静かなる戦争』(PHP研究所、二〇〇三年)
大杉一雄著『真珠湾への道』(講談社、二〇〇三年)
ウィリアム・イースタリー著／富田陽子訳『エコノミスト南の貧困と闘う』(東洋経済新報社、二〇〇三年)
薬師寺克行著『外務省』(岩波新書、二〇〇三年)
小倉和夫著『吉田茂の自問』(藤原書店、二〇〇三年)
ロバート・A・ダール著／杉田敦訳『アメリカ憲法は民主的か』(岩波書店、二〇〇三年)
井田博著『日本プラモデル興亡史』(文春ネスコ、二〇〇三年)
馬立誠著／杉山裕之訳『反日』からの脱却』(中央公論新社、二〇〇三年)
ステイブ・ハウ著／見市雅俊訳『帝国』(岩波書店、二〇〇三年)
- | | | |
|------|-------|--------|
| 読売新聞 | 二〇〇三年 | 二月二三日 |
| 読売新聞 | 二〇〇三年 | 三月二日 |
| 読売新聞 | 二〇〇三年 | 四月六日 |
| 読売新聞 | 二〇〇三年 | 五月二六日 |
| 読売新聞 | 二〇〇三年 | 五月四日 |
| 読売新聞 | 二〇〇三年 | 六月二日 |
| 読売新聞 | 二〇〇三年 | 六月二九日 |
| 読売新聞 | 二〇〇三年 | 七月二三日 |
| 読売新聞 | 二〇〇三年 | 七月二七日 |
| 読売新聞 | 二〇〇三年 | 八月一〇日 |
| 読売新聞 | 二〇〇三年 | 九月二八日 |
| 読売新聞 | 二〇〇三年 | 一〇月五日 |
| 読売新聞 | 二〇〇三年 | 一〇月一九日 |
| 読売新聞 | 二〇〇三年 | 一〇月二六日 |
| 読売新聞 | 二〇〇三年 | 十一月六日 |
| 読売新聞 | 二〇〇三年 | 十一月三〇日 |
| 読売新聞 | 二〇〇四年 | 二月一日 |

- 瀧井一博著『文明史のなかの明治憲法』（講談社、二〇〇三年）
 カーター・J・エッカート著『日本帝国の申し子』（草思社、二〇〇四年）
 北岡伸一著『日本の自立』（中央公論新社、二〇〇四年）
 三好範英著『戦後の「タブー」を清算するドイツ』（垂紀書房、二〇〇四年）
 澤宮優著『炭鉱町に咲いた原真野球』（現代書館、二〇〇四年）
 下條正男著『竹島は日韓どちらのものか』（文春新書、二〇〇四年）
 デイヴィッド・グロスマン著／二木麻里訳『死を生きながら』（みすず書房、二〇〇四年）
 渡辺靖著『アフター・アメリカ』（慶應義塾大学出版会、二〇〇四年）
 クリス・ヘッジス著／伏見威蕃訳『本当の戦争』（集英社、二〇〇四年）
 マイケル・シャーラー著／市川洋一訳『日米関係』とは何だったのか』（草思社、二〇〇四年）
 ジョン・L・ギャデイス著／浜林正夫他訳『歴史の風景』（大月書店、二〇〇四年）
 沢木耕太郎著『一九六〇』（文藝春秋、二〇〇四年）
 君塚直隆著『女王陛下のブルーリボン』（NTT出版、二〇〇四年）
 土山實男著『安全保障の国際政治学』（有斐閣、二〇〇四年）
 江畑謙介著『日本防衛のあり方』（KKベストセラーズ、二〇〇四年）
 ビル・クリントン著／楡井浩一訳『マイライフ クリントンの回想』（朝日新聞社、二〇〇四年）
 ドン・ヴァン・ナッタJr.著／吉田晋治訳『大統領のゴルフ』（NHK出版、二〇〇四年）
 阿川尚之著『憲法で読むアメリカ史』（PHP新書、二〇〇四年）
- | | | |
|------|-------|--------|
| 読売新聞 | 二〇〇四年 | 二月二五日 |
| 読売新聞 | 二〇〇四年 | 三月七日 |
| 読売新聞 | 二〇〇四年 | 五月二日 |
| 読売新聞 | 二〇〇四年 | 五月九日 |
| 読売新聞 | 二〇〇四年 | 五月二三日 |
| 読売新聞 | 二〇〇四年 | 五月三〇日 |
| 読売新聞 | 二〇〇四年 | 六月一三日 |
| 読売新聞 | 二〇〇四年 | 六月二七日 |
| 読売新聞 | 二〇〇四年 | 七月一八日 |
| 読売新聞 | 二〇〇四年 | 八月八日 |
| 読売新聞 | 二〇〇四年 | 八月二五日 |
| 読売新聞 | 二〇〇四年 | 八月二九日 |
| 読売新聞 | 二〇〇四年 | 九月二日 |
| 読売新聞 | 二〇〇四年 | 九月二六日 |
| 読売新聞 | 二〇〇四年 | 一〇月一〇日 |
| 読売新聞 | 二〇〇四年 | 一〇月二四日 |
| 読売新聞 | 二〇〇四年 | 十一月七日 |
| 読売新聞 | 二〇〇四年 | 十一月二八日 |

イアン・ニッシュ著／関静男訳『戦間期の日本外交』（ミネルヴァ書房、二〇〇四年）
読売新聞 二〇〇四年二月五日

中島誠著『立法学』（法律文化社、二〇〇四年）
読売新聞 二〇〇四年二月二日
ジエームズ・マン著／渡辺昭夫監訳『ウルカヌスの群像』（共同通信社、二〇〇四年）
読売新聞 二〇〇四年二月一九日

XI 小品・エッセイ

「ワシントン現地レポート この『戦争』の行方を思う」
『外交フォーラム』一四卷一一号 二〇〇一年
「今は必要ないけど・・・」
『諸君』三五卷八号 二〇〇三年

XII その他

『サンフランシスコ平和条約の外交史的研究』（平成一五年度～一六年度 文部科学省科学研究費補助金）
二〇〇六年
（基盤研究（C）（二））研究成果報告書
『混迷を深める世界と日本 どうなる日米同盟』（国民會館（国民會館叢書 八一））
二〇〇九年